

# こまちぷらす公開ミーティング～小さなお店からできること～ver.1 布について

Feb 02, 2018

こちらのブログしばらく更新できずにいました。

ワークショップ等の情報はこまちぷらすHPのイベントカレンダーよりご覧ください。

新しいブログを検討していますが、それまでの間、

こちらでは、Facebook で繋がっていない方にもお届けしたい情報をアップしたいと思います。

代表森の記事より

↓

【SDGs × haco+】

2017年12月に初の試みで「こまちぷらす公開ミーティング」

というものを開催しました。

こまちぷらす内のこまちカフェ

手づくり雑貨マルシェ haco+という

雑貨を販売する部門の

契約作家さん(常時 30-40 人程います)及び

こまちパートナーさん対象に

「こまちぷらす公開ミーティング～小さなお店からできること～ver1.布について」

と題して開催。

今日はパートナーさんも合わせて 10 人強の方が集まってくださり、

こまちぷらすの手づくり雑貨マルシェ haco+(<http://comachiplus.org/wp/cafe/order>)

ですすめてきた新コンセプトについて一緒に考えていただきました。

孤育てのない社会をつくるというビジョンをすすめるなかで、

「社会との隔絶感」を深く感じる人が多くいて

それが更に深まっていると最近感じます。

子育てをする、毎日のものを買う、大事に使う、

掃除をする片付ける、そんな日常こそ「社会」であって、

そこに誰の評価がなくても誇りがもてたり、

社会からとりのこされているのではなく、

そんな日常を動かしている自分こそが

社会の大きな一部で動かしている一人であるということ

認識できたらいいのになあと感じてきました。

そんな仕掛けは

「ものづくり」と「買う」「使う」がとても近くにある

haco+だからできるのかなと思って、SDGs × haco+を  
キーワードに半年ミーティングを重ねてきました。

SDGs(エスディーゼズ)は国連が定める 17 の行動指針、環境や飢餓貧困、  
まちづくりへの配慮をした  
調達やものづくり、サービス提供を推進するもので、  
今世界中でこの指針に基づいた  
団体活動、企業活動、消費活動が広がっています。  
といいつつ、日本はかなりとりのこされています。  
私たちは今年開催されたワークショップで  
この SDGsを知り、事業との掛け合わせを考えてきました。

大きな会社だからこそできることじゃなくて、  
消費者生活者に近いところにある  
小さなお店だからできることは何だろうか。  
数か月前は  
「こまちカフェの洗剤を考えよう！」というお題で  
スタッフとパートナーさんと一緒に検討をしたのですが、  
この洗剤ミーティングをへて  
「検討する」という過程そのものに価値があると感じました。

そんな中で haco+部隊が商品コンセプトづくりで  
検討や工房を訪ね歩く等重ねてきた中でひよんなきっかけから  
とあるオーガニックコットンを使った商品を販売されている  
メーカーさん担当から  
オーガニックコットンの端切れを多数いただきました。  
「この端切れをつかっていただくことで  
何かお力になれば」とお話くださったそうです。

そんな端切れにどんな風に命を吹き込むと、いいのかなあと  
思って実施したのがこの日の公開ミーティングです。

どうやったら  
環境に配慮しながら布をつくっている人、  
綿を育てている人から  
それを商品になるように形づくっている作家さん、  
その販売する場を運営する人たちまで  
それぞれ森の豊かさを考えるという一本の線につながるか。  
それを購入した「自分」がそこに価値を感じて日々使うことで  
森の豊かさを保つということに力になっているかを感じて  
誇らしくなるか。

たっくさんの数のアイデアや可能性、難しさが見えてきました。

「オーガニックのものはやはり価格が高い。

お客様はその物差して買っている。

そもそも消費者が買わないと市場は活性化されない」

「顔や手など敏感な部位に使うものから始めてみてはどうか」

「布はほぼ化学薬品で染めている」

上記のようなオーガニックという視点だけでなく、

「ものの廃棄」「環境配慮」という視点でのアイデアも  
でした。

「端切れの大きさカタチは様々のため、どうしたらよいか分からない人が多いためたまっていく」

「端切れはたくさん工場に余っている在庫に困ってほぼ廃棄されている」

といった視点での意見も出てきました。

驚くのは

この公開ミーティングをするという話を聞いて、  
自分にできることを考え、思い切って工場に  
電話をかけて余り布をもらえることになったという  
作家さんもいました。

最初は大変不信がられたそうで、  
工場の方も誰も SDGsなんて知らなくて  
いろいろと反応があったそうですが、  
めげずに工場にかけあったそうです。

その行動力に驚きました。

また、とある作家さんは  
試作品までつくってこられていました。

最後には

こうやってそもそもの創られる工程や背景を  
「知る」というところから始まるんだね、  
という気づきがパートナーさんからでて、  
手を動かしながら、背景を知るところから  
始めようという提案がありました。

「一緒に考えていただけませんか」というたった

それだけの呼びかけで

これだけの人たちがもぞもぞと考えて

調べていつのまにか動いてらしたことに感動でした。

いろんな方の「知りたい」が

ものごとを動かすんだなというエネルギーを感じた一日でした。  
ご参加いただいたみなさまありがとうございました。  
まだまだどんな風になっていくか分からない  
状況での状況アップですが、  
なんにもそういうことにはもともと  
興味なかったわという人の  
「知りたい」が重なっていくと  
どんな風になっていくのか私自身も楽しみです。  
ものをつくる人の変化、  
買う人の変化、使い方の変化。  
ここからどうなるんだろう。

12月20日の公開ミーティングの様子  
写真アップの了承得るのを忘れ、  
他の方が映ってない写真で雰囲気お伝えします。



ってこれじゃ全然伝わらないか。笑

## こまちぷらす公開ミーティング～小さなお店からできること～ver.2 綿について知ろう「綿はどこから？」

Mar 13, 2018

公開ミーティング ver.2(2018/1/17)の開催報告です。  
なかなかすぐにUPできずにいますが、順を追って報告させていただきます。

『公開ミーティング～小さなお店からできること～ver.1 布について』では

ご寄付いただいたオーガニックコットンの端切れ生地を使って  
私たちにできることは何だろう？ということ  
集まって下さった皆さんと一緒に考えました。

その結果、「知ること」から始めたいということが意見としてでてきました。

ということで、  
『公開ミーティング～小さなお店からできること～ver.2』を開催いたしました。

テーマは『綿について知ろう「綿はどこから？」』



そもそも綿は、どこでどうやって作られているの？  
生産過程で働く人はどんな人たち？  
オーガニックではないコットンとの違いは？  
など意外と知らないことばかり……

なので、一方的に聞くだけではなく、それぞれの「疑問に思ったこと」や  
「調べたこと」「調べてもわからなかったこと」を持ち寄る場にもしました。

参加者は haco+クリエイターさんや、こまちパートナーさん、スタッフなど 10 数名のみなさん。

会の初めに、こまちぷらす森の挨拶を代読させていただきました。  
長文ですが、こちらにも貼らせていただきます。

\*\*\*\*\*

皆さん、こんにちは。第一回ご参加のみなさまありがとうございました。  
今回初めての方も一緒に今回考えることができうれしいです。  
今日はよろしくお願ひします。

このプロジェクトの趣旨は、  
SDGs × ものづくり。

生活者や造り手が集まるこのカフェのような場で  
戸塚と世界の裏側がつながっていることを確認し、  
そして、よりよい未来につながる  
一人一人の小さな変化をつくっていけるか、の小さくて大きな挑戦です。

孤立した子育てがない社会をつくりたいという  
ビジョンをもって活動をしている NPO 法人こまちぶらすとしては  
「子育て中の私」が社会の大きな一部を担っていることを  
確認することこそ、社会から孤立がなくなる大きな一歩だと  
信じています。

前回はその目的や背景を確認し、  
また、オーガニックの生地をご寄付くださった  
天衣無縫さんの生地を活かし何ができるかみんなで考えたい  
どのようなことができるかいろんな意見を出し合いました。

その結果、いろんな意見がでましたが最終的には  
「理解」なしには「変化なし」ということを確認できました。  
ということで、まずは自分たちから「理解をする」というところから  
始めようと思い、

- ①いかに綿が育てられていえるか、綿を紡いでいるのか
  - ②糸になる工程はどんなものか
  - ③生地になり、製品になる工程はどんなものか。
- その過程そのもののみならず、その周りにいる人や環境が  
今どうなっているのか、を見ていきたいと思います。

今回のテーマは①の綿にフォーカスしました。

綿といえば、私自身、  
昨年2月にイスラエルにいったときにきいた綿の話を思い出します。  
イスラエルでとあるおばあちゃんからお話を聞くことができたのですが  
その方は  
第二次世界大戦のユダヤ人大虐殺でも有名な  
アウシュビッツを生き抜いた方であり、現在も世界各地で  
講演活動をされている方でした。

2時間ほど壮絶な体験を聞いたのですが  
中でも彼女がまだ10代後半の少女だったころに  
アウシュビッツで課せられた仕事の話をよく覚えています。

とあるときは、  
毎日ベッドに横たわる人を触る仕事をしていて

冷たければ死、あたたかければ生きている、と手で確認し  
死体は焼き場にもっていくという仕事。  
とあるときは、綿を毎日朝から晩まで摘む仕事をしていたそうです。  
綿にあるとげが痛くて痛くて、毎日血だらけで手が真っ赤にはれあがっていたと  
お話をされてました。

私はそのときに、綿にはそんなとげがあるものなのか  
ということを初めて知りました。  
死んだ人の体の冷たい手の感触は一生わすれない、とおっしゃっていたのですが  
私は「綿」ときくと、ぱっとその穏やかなおばあちゃんの顔と  
その冷たい手と綿を摘み真っ赤にはれた手がぱっと思い出されます。

それが過去の歴史の話ではなく、  
知らないところでつぐられ、知らず知らずつかい、  
知らず知らず捨てている、すべてそんなことは今も一緒だろうなと思いました。

サービスや商品をお金を払って消費し、  
「価値を払ったのだから」とどこかで優位性を感じて  
自分が持ちコントロールできる自由と同時に、  
どこかで満たされないものを  
もっているのも現代の病気でもあり  
この子育ての「孤立」に感じるぽっかりした穴のようなものも  
深く関係しているように思えてなりません。

私はそんなことがみなさんと考えていくと見えてくるような気がしているので、  
今日もより豊かでわくわくする子育て、生き方につながる自分事として一緒に考えていけたらうれしいで  
す。

よろしく申し上げます。

\*\*\*\*\*

また、特別ゲストとして  
端切れ生地やスライバーという製造工程途中の綿をご提供いただいた  
[天衣無縫](#)さんのご担当の方をお迎えし、  
「オーガニック・コットンで変えられる世界の問題」と題して  
コットンの生産の現状をお伝えいただきました。

農薬や枯葉剤使用、遺伝子組み換え種子の問題など、日本にいる私たちが安価で手に入れられるもの  
は、世界の様々な人々の犠牲の上に成り立っているという現実も教えていただきました。

布のことを知ることで、世界の様々な問題があることを知りました。



↑ ご提供いただいたオーガニック・コットンの端切れ生地

前回、端切れ生地を持ち帰ったクリエイターさんの中には早速試作に使った方もいらっしゃいました。

私たちの打ち合わせ不足もあり、

10:00～10:50 という朝カフェタイムの短い時間ではどうにも時間が足りず、  
参加者のみなさまには途中で移動していただくなど、ご不便をおかけいたしました。

綿について知ると、次は綿からどうやって糸になるのか？が知りたいということで、  
次回 Ver.3 は糸つむぎ体験とSDGsが、ものづくりにどうつながるかを知る会にしましたので  
またご報告します。





# こまちぷらす公開ミーティング～小さなお店からできること～ver.3 綿から糸へ

Mar 13, 2018

公開ミーティング ver.3(2018/2/23)の開催報告です。

テーマは『綿から糸へ』



ver1.ver2 の振り返りを簡単にした後



数名の作家さんにご協力いただき、短い時間ですが、綿から糸になる工程の一部の糸つむぎミニワークショップを行いました。

綿のスピンドルを使って、実際に綿から糸を紡いでみました。



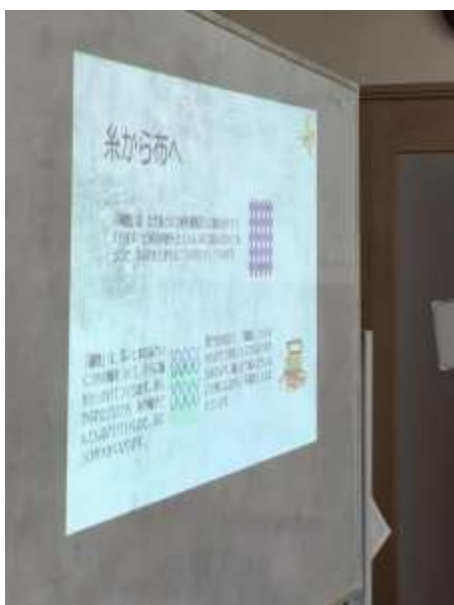
本当にわずかな時間でしたので、できる糸もほんの少しでしたが、糸ができる体験を通して、いかに手間ひまがかかる作業かよくわかりました。



日本人もこのような作業を日常的におこなっていたとは昔の人が、ものを大切にする理由がよくわかりますね。



今回は、ランチ会も一緒にもうけ、これらの公開ミーティングを経てどのようにこの活動がこまちぷらすの活動やビジョンにつながっていくのか、SDGsとどうつながっていくのか、について改めてお話をこまちぷらす代表森、及びスタッフ佐藤よりミニ勉強会形式で実施し、その上で意見交換をしていきました。





お食事を召し上がっていただきながら  
SDGs ミニ勉強会とシェアタイム



Ver.2 でもお越しいただいた[天衣無縫](#)さんにも、またご協力いただき、  
「オーガニックコットンが実現できるSDGs」と題して  
お話ししていただきました。



〇3年以上農薬不使用、化学肥料不使用の圃場で栽培される  
実現できる SDGs: 3、12、13、15

○オーガニックコットンはフェアトレードである  
実現できる SDGs: 1、2、8、10、16

以上の項目の実現によって  
連鎖的に実現することができる SDGs: 4、6、14、17

※SDGs(エスディージーズ)とは…

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称で  
国連が定めた「2030年までに達成すべき17の目標」のことです。

詳しくはこちらから→ [★\(国連広報センターサイトへ\)](#)

SDGsの17の目標のほとんどを達成できるってすごいですね。

お話ししてくださった[天衣無縫さん](#)、  
ご参加くださったみなさん、ありがとうございました。

3回目の公開ミーティングはランチの時間も利用して盛りだくさんの内容になりました。  
haco+でできること何か、クリエイターさんのご協力をいただきながら  
今後も考えていきたいと思えます。

次回は

糸から布になる工程の「織り体験」を交えた公開ミーティング Ver.4 を開催します。

## こまちぷらす公開ミーティング～小さなお店からできること～ver4 糸から布へ～

Mar 19, 2018

公開ミーティング ver.4(2018/3/15)の開催報告です。

テーマは『糸から布へ』





これまで、  
ver.1『布について』  
ver.2『綿について知ろう～綿はどこから?』  
ver.3『綿から糸へ』を開催してきました。

最後の公開ミーティング ver.4 のテーマは  
『糸から布へ』

つむいだ糸が布になる工程の「織り機体験」ワークショップを行い、今後の展開についてもお伝えして意見交換を行いました。



今回も糸つむぎが得意な作家さまと草木染めの好きな作家さまにご協力いただきました。本当にありがとうございます。

当日とってもステキな織り機と紡ぎ車を朝早くから車でカフェまで運んできてくださいました。紡ぎ車で糸をつむぐ様子を実際に見せていただき、カフェがステキな空間になりました。



前回 ver.3 の糸つむぎワークショップでつむいだ手つむぎ糸は、ほんのわずかで布ができるほどの量はなかったのですが、作家さまが事前に紡ぎ車でつむいでくださった糸を別の作家さまが蘇芳(すおう)という草木染めの染料でステキな色に染めてくださった糸を使って織り機体験をしました。



布ができていくくみを理解しながら手を動かすのは普段できない貴重な体験です。  
わずかな時間でしたので、できる布もほんの少しでしたが、なんとも言えないあたたかみを感じました。

このような作業をする日常なら、できあがった布に愛着がわき、ボロボロになっても繕いながら大切に使うのは必然ですね。

体験した参加者から

「『つるのおんがえし』はこんな織り機だったの？」と素朴な疑問も出たり、  
ハンドメイド業界のあるあるなどを情報交換をしたり終始和やかで楽しい時間でした。





順番に織機を使ってみました。



ワークショップで織り途中になってしまったものは後日完成させてくださるそうです。  
とっても楽しみです。



ワークショップのあとは、ランチ会を行い、今後の haco+ の SDGs × ものづくりの展開について話しながら、ランチをご一緒させていただきました。

作家さまからは「自分の作っているものをどう SDGs とどう絡めたらよいかわからない……」  
「そもそも手づくりすること自体が SDGs としてのアクションにつながっていくのではないか」  
そんな声もありました。

ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。

全 4 回の公開ミーティングを経て、

今後は 5 月から 7 月に『商品企画の会』全 3 回を計画しております。

秋には「SDGs × ものづくり」として商品販売できるよう haco+作家さまや各企業さまにご協力いただきながら進めてまいります。

小さなお店からできること

『SDGs × ものづくり』を考えている

手づくり雑貨マルシェ haco+の今後の展開を

どうぞお楽しみに！

